

2007年5月31日

大王製紙株式会社

～ 6月2日は、おむつの日！～
『GOO.N プレミアム』6月2日“おむつの日”制定記念
『赤ちゃんに関する意識調査』発表

赤ちゃんにかけるお金、
「貯金」して「勉強」に投資する団塊世代。
「プチリッチ」で「特別な才能開花」に投資する今の親。

～現代の“赤ちゃん消費”におけるキーワードは『プチ贅沢』～

大王製紙株式会社では、今年4月に発売した“今おむつにできること全て”をコンセプトに開発した最高級プレミアムおむつ『GOO.N プレミアム』の発売を記念し、“理想のおむつがある生活”を通じ健やかな赤ちゃんの成長を願い、6月2日をおむつの日に制定致しました。

このおむつの日に先駆け、“赤ちゃん市場”に関して『赤ちゃんに関する意識調査』を実施しました。当調査は、ご家庭に赤ちゃんがいる20～35歳400名（以下、「ママパパ世代」）、お孫さんをもつ55歳以上400名（以下、「祖父母世代」）を対象に赤ちゃんに関する意識を調査したものです。

当調査では、生後1歳未満の子供の呼称を『赤ちゃん』として表記しております。

現代の“赤ちゃん消費”は付加価値を重視した“プチ贅沢”主義

赤ちゃんに費やす月平均金額は今も昔も変わらず

ママパパ世代、祖父母世代（子供が赤ちゃんだった頃）共に、1ヶ月に赤ちゃんに費やす平均金額は3万円未満が最も多い金額となり、今も昔も赤ちゃんに費やす金額そのものには変化がないことが分かりました。

“おむつコスト”は30年で3倍に増加

一方で、おむつに費やす月の平均金額は、祖父母世代の4割が1,000円未満（子供が赤ちゃんだった頃おむつにかけた金額）であるのに対し、ママパパ世代では7割以上が3,000円以上と回答していることから、赤ちゃんのおむつに費やす金額がこの30年で3倍にも上がっていることが分かりました。

“紙おむつ派”が約5倍増加

「紙おむつと布おむつの割合はどれくらいですか（でしたか）？」という問いに対し、祖父母世代では、わずか2割の方のみが、“紙おむつ派”と回答。一方、ママパパ世代では約9割以上が“紙おむつ派”と回答。祖父母世代と比較して、約5倍も“紙おむつ派”が増加している事がわかりました。

この結果は、祖父母世代である団塊世代がママパパだった約30年前は、経済的な理由や赤ちゃんに「紙おむつを履かせるとお尻がかぶれる」という謂れがあった為、紙おむつと共に布おむつも使用されていたが、わずか30年で紙おむつの品質が飛躍的に向上したこと、忙しいママが増えたことなどに起因していると当社では分析しています。この30年で、使用するおむつの多くが紙おむつに変わったという結果は、月平均の“おむつコスト”が3倍に増加したことの理由といえます。

また、赤ちゃんに消費する月の平均金額に世代で変化のないものの“おむつコスト”が3倍になっているのは、赤ちゃんに消費するお金の全体の金額は変わらないものの、その内訳が家具やベビーベッド等の特別なものから、生活用品に変わってきていると分析しています。

ママパパも自分の趣味を我慢して、赤ちゃんへ投資

また、「赤ちゃんの為に自分が何かを我慢することがありますか？」という設問に対し、両世代で、6割以上が「はい」と回答。「赤ちゃんの為に配偶者の方に我慢をさせたことがありますか？」という設問では、祖父母世代が約40%が“ある”という回答であるのに対し、ママパパ世代では約60%もが“ある”と回答し、20%も増加していることから、現在の夫婦関係が、良く言えば相手にも我慢をさせるオープンな夫婦関係、別の見方では、相手にまず我慢を要請する夫婦関係という特徴も明らかになりました。

また、「自分で何を我慢しましたか？」「配偶者（相手）に何を我慢させましたか？」という設問に対しては、自分も配偶者（相手）も祖父母世代よりもママパパ世代が「趣味につかうもの（お金）」が増加していることが分かりました。つまり、ママパパ世代は赤ちゃんの為に何かを我慢する際には、まず趣味に関連するものをカットするという傾向が分かり、別の視点では30年前より生活水準が向上したことで現代のママパパは、趣味をやる余裕・お金があるという傾向が明らかとなりました。

お金を投資して子供にやらせたい事 NO1 は昔は『勉強』、今は『スポーツ』

「赤ちゃんが成長した際、教育の観点からお金を費やして、やらせたい特別なことがありますか？」という設問に対し、ママパパ世代の2人に1人が「運動神経を伸ばす為、スポーツ教室・クラブ等に入れる」という回答を選択。祖父母世代で最も選択の多かった「良い大学に入れるように、家庭教師を付ける。又は、有名進学塾に通わせる」という投資先と比較し、ママパパ世代では、同回答は四分の一に減少。

この結果は、祖父母世代が育児をしていた頃と比較すると、サッカーや野球などスポーツにおける世界の舞台で、輝かしい活躍により高所得を得るといふ日本人スポーツ選手が増加し、スポーツ選手として生活できるという例があり、一職業としての『スポーツ選手』が確立されているという事に加え、ママパパ世代では勉強に金銭を費やす事は当然であり“付加価値”としての『スポーツ』と捉える親が多いという事がわかりました。

『1億円』あったら“貯める”祖父母世代、“つかう”ママパパ世代

『もしも、赤ちゃんが生まれた日に1億円が当たったとしたら、一番の遣い道は何ですか？』という設問に対し、祖父母世代では、2人に1人が「赤ちゃんの為に貯金」と回答。ママパパ世代では『子供部屋があるマイホームの購入』と回答した人が最も多い結果に。また、『こだわりのベビーグッズを購入』を選択したママパパ世代は、祖父母世代の2倍に増加。総じて、お金の遣い道は、祖父母世代は“貯める”傾向が、ママパパ世代は赤ちゃんの為に“つかう”傾向が明らかとなりました。

「ママパパ世代は節約し、こどもに金銭を費やしている」と専門家は分析

当調査の結果について、お茶の水女子大学 生活科学部長 御船美智子教授は、以下の様に述べております。

紙おむつが一般化したのは平成に入ってからといえる。また、紙おむつコストを「全国消費実態調査」（調査時期は9～11月、データは1ヵ月平均）の中から、勤労者世帯・核家族・夫婦と子供が1人・子供が2歳以下の幼児の世帯で推移を見ると、ほとんど変化していないようにみえるが、紙おむつの価格指数で実質化（2000年価格）すると、実質的にはこの15年で2倍の購入をしている。相対的に価格が安くなって、紙おむつの購入量が多くなっている。

勤労者世帯・核家族・夫婦と子供が1人・子供が2歳以下の幼児の世帯で、1989年と2004年の家計費を比較すると、年収は2割ほど増加しているが消費支出は1割増しにとどめている。食料費は1割減。とはいえ、調理食品は3割増、外食は1割増。洋服は随分減らして、男性で3割減、男性のこづかいが1割減っている。持ち家率が24.1%から36.3%に上昇していることからわかるようにこどもが赤ちゃんのころから、住宅を購入する傾向が強く、妻が有業する傾向も進んでいる（子供が1人で2歳以下、有業人員が1.13人から1.22人）。住宅ローンの返済が若い頃からあるため、食料費や洋服やこづかいの節約をしている。しかし、こどもの洋服は節約の対象にはなっていない。玩具や月謝、授業料をかけるようになっている。

